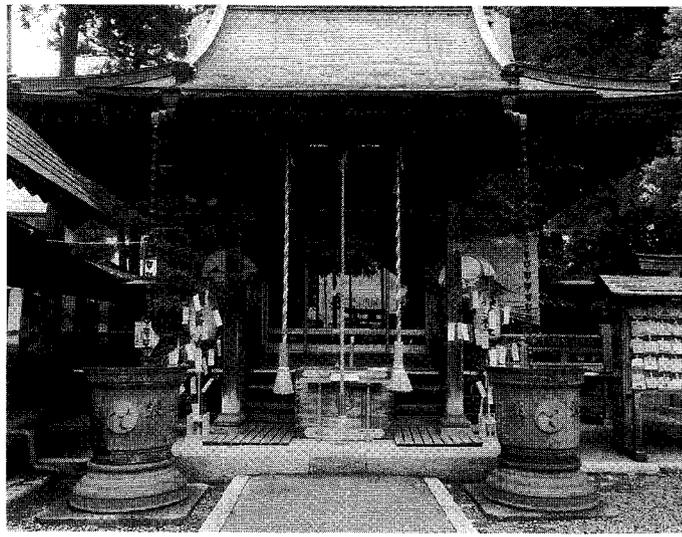


榛名神社社報



榛名神社由緒記

御祭神

はにやまひめのみこと

埴山姫命 (生命守護・五穀豊穡の神)

倭建命 (開運・土地守護の神)

すがわらのみちぎねのみこと

菅原道真命 (学問守護・災難厄除の神)

たけみなかたのみこと

建御名方命 (産業守護・健康長寿の神)

根社・末社

おおくにぬしのみこと

大國主命 (商売繁盛・良縁結び・病氣平癒・交通安全の神)

琴平宮・熊野社・稲荷社・産泰社・五柱社

厳島社・加茂社 面美様

元縣社・利根沼田総鎮守

沼田氏、真田氏・本多氏、黒田氏、土岐氏と代々の城主の崇敬を受け、その由縁の品々が今も保存されている。特に本殿は享祿二年(1529)沼田頭泰の建立、元和元年(1615)真田信之により改築され、豪華華麗な桃山文化を今に伝える。

発行日 令和二年六月十五日
発行所 沼田市榛名町二八五一
電話〇二七八(2)二六五五
http://harunamori.org
発行人 金子浩隆

神道講話

沼田まつり(祇園祭)

昨年の沼田まつりは、たくさんの方々のご芳志により謹製されました、新しい榛名神社神輿に、初めて榛名大神様をお遷し申し上げ、盛大に斎行されました。御浄財をお寄せいただきました皆様方に、改めて心より感謝申し上げます。

榛名大神様をお遷し申し上げた神輿は白く輝き、多くの方々から、その神々しく厳かな神輿の渡御還御に関して、たくさんの方の感動のお言葉を頂戴いたしました。

六月九日に新しい神輿の完成奉告祭が斎行され、同時に旧神輿の担ぎ納め、そして、新神輿が披露され、八月三日には神璽奉遷神輿発幸祭、渡御、仮宮着御祭、四日には仮宮にて恒例大祭、五日には、還御、宮入、本殿着御祭が恙なく斎行されました。

神まつり(神事)としての祇園祭

今年に入り、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大で、だれもが経験したことのないような緊急事態となりました。各方面で、あらゆるものが中止、延期を余儀なくされ、そんな中で沼田まつりも中止という決定に至りました。(ただし、神事については、それぞれが斎行するようにとのことでした。)

そもそも祇園祭とは、疫病退散のための神事です。このような時だからこそ、元来の目的である神事としてのお祭りは、しっかりと斎行しなくてはなりません。祇園祭は千百年の伝統を有する京都の八坂神社の祭礼です。その起源は平安中期の八六九年(貞観十一年)までさかのぼります。

す。当時の平安京には疫病が蔓延し地震や火災などの災害が頻発し、その災厄は悪霊もたらしているという考えの御霊(ごりよう)信仰が広がりました。そこで、平安京の広大な庭園であった神泉苑に、当時の国の数と同じ六十六本の鉾をたて、祇園の神を祀り、さらに神輿を送って、災厄の除去を祈ったことが始まりと言われています。街々家々ごとに注連縄を張り、清浄な神域をつくることにより、ウイルスの感染を防いだとも考えられます。

その後、祇園祭は全国に広がり、各地で、特に夏の暑い時期の疫病や災厄を除去する祭礼として現在に至っているのです。

新しい生活様式を求められる現在ですが、榛名神社では、三密は避けつつ、本来の意義である、疫病退散、災厄消除を、しっかりと祈り、祇園祭(夏の大祭)を斎行して参ります。

今年の祇園祭の予定

- 八月三日 神璽奉遷神輿発幸祭
 - 八月四日 恒例大祭
 - 八月五日 本殿還御祭
- 車での渡御 十二ヶ町
榛名神社↓



【昨年の沼田まつり、新宮神輿の担ぎ出し】

大祓詞

祝詞とは、祭典に奉仕する神職が神様に奏上する言葉です。言葉には霊力が宿り、口に出されて述べることにより、この霊力が発揮されると考えられています。良いことを言葉にすれば良いことが、悪いことを言葉にすれば悪いことが起こると考えられてきました。祝詞には、こうした言葉に対する信仰が根底にあるため、一字一句に流麗で荘厳な言い回しを用いて、間違えることがないように慎重に奏上されます。大祓詞は最強の祝詞です。



【上の写真は8月3日、氏子6ヶ町マンドの勇壯な演奏はか奉迎を受ける神輿。左上の写真は役員・総代を先頭に渡御する神輿】



【夏越の祓い 茅の輪くぐり】